

豊山町都市計画マスタープランの見直しの背景と策定体制

全面的な見直しの背景のポイント

名古屋空港の位置づけの変化に対応したまちづくり

平成17年2月の中部国際空港の開港により、名古屋空港は小型航空機中心の「都市型総合空港」へと機能転換が図られました。一方、旧国際線ターミナル地区に大規模集客施設が立地したことにより、地域経済・雇用などに変化が予想されます。

このように都市計画の背景に大きな変化が生じています。抜本的な見直しにより新しい方針を定めることとします。

社会情勢、都市計画法の変化に対応した計画づくり

地方分権が進み、市町村が主体的に都市計画を進めていくことが可能となりました。また、平成12年には住民参加を促進するための改正、更に平成18年度には人口減少・超高齢化社会の到来に備えた改正と、都市計画法の体系も社会情勢にあわせた変化が生じています。

こうした動きを受け、愛知県は平成22年度を目標に都市計画の総見直しを行う予定です。この見直しにあたって、豊山町としての都市づくりの基本的な方針を定めておく必要があります。

住民の視点からみた住環境づくり

住民参加による都市計画の推進のためには、日頃の生活実感をもとに、安心、安全、便利、そして快適な住環境づくりの計画を、地域ごとの特徴を踏まえて検討していく必要があります。このため、アンケート調査やワークショップにより、地域のよいところ、足りないところ、改善すべきところを知り、マスタープランに反映する必要があります。

豊山町都市計画マスタープランの策定体制について

(計画づくりへの住民参加手法の導入)

ワークショップによる住民参加

地域のまちづくりの課題抽出と解決のために、地域別構想の検討には小学校区単位で住民参加のワークショップを実施し、意見交換を行う中で、まちづくりの目標等についての検討を行います。

策定委員会による計画づくり

学識経験者、地域住民、県職員からなる策定委員会を組織し、県都市計画区域マスタープランとの整合を図りながら案の策定を行います。

都市計画マスタープラン策定の体制図

